教育センターだより
編集・発行
君津市教育センター
君津市久保２－１３－１
TEL（５６）１４５１
FAX（５６）１６４８
第１２９号

長欠対策シリーズ　その６

我が校の長欠対策

君津市立大和田小学校　校長　大野克巳

大和田小学校では昨年度長欠率０％を目標に長欠対策を進めてきました。

しかし、１月末までは順調に０を重ねた長欠報告も、２月から３月にかけての欠席増加で、年度末には長欠児童が６名、長欠率１．２８％となり校内目標達成は夢と終わり、市の達成目標１％を下回ることができませんでした。

ここ数年減少を続けていた長欠者数も一気に増加し残念な結果でした。数字的には成果の上がらなかった長欠対策ですので今回の掲載依頼にとまどいましたが、これも一例､お読みいただき御指導をいただければ幸いです。

本校では､『学校は一人ひとりの児童にとって楽しく存在感のある場所でなければならない｡』ということを実践の基本においています。そのために常に子ども一人ひとりを見つめ、子どもに寄り添い「子どものために何ができるか」「子どもにとってどうすることが良いのか」を優先して日々取り組みを進めています。

子どもが持っている、学びたい、より向上したい、友達と遊びたいという気持ちを満たすべく、わかる授業、一人ひとりの良さを認め伸ばす、あるいは鍛える、子ども同士の良い人間関係を築く等に努めています。

しかしながら、本校でも日々の取り組みの間隙を縫って様々な要因が子どもの登校を妨げています。

そのため、子どもたちの登校を妨げる障害に早く気づき、取り除く、あるいは障害を乗り越えさせるという取り組みを日々心がけています。

具体的には、
①早期発見・早期対応に努める。
②児童一人ひとりのことを考え、教育相談的な指導をする。
③職員間の共通理解を図る。
④家庭との連絡を密にする等の取り組みです。

①早期発見・早期対応では、遅刻者や欠席者について理由を手紙、電話、家庭訪問等で的確に把握し対応しています。連絡のない場合は必ず確認します。
②教育相談的な指導では、養護教諭、担任、教育相談係が連携を深め、個々の児童にあった指導方法を工夫しています。
③職員間の共通理解では、職員会議、生徒指導部会で話し合うと共に課題を持つ子に対して全職員で関わっていくようにしています。
④家庭との連絡では、小さな問題でも、気にかかることは連絡を取り合い、場合によっては家庭を訪問する、来校してもらう等の対応をしています。

特にここ数年徹底しているのが、欠席連絡のない場合の確認活動です。

朝あるいは休み時間に、連絡のない家庭に電話をする職員の姿が、毎日のように見られます。電話で連絡のつかない場合は、家庭訪問を実施します。状況によっては放課後を待つことなく、空き時間、業間休み、昼休みにも出かけ、登校できる状況であれば登校をさせました。

授業の関係で担任が対応できない場合は、教頭を中心に、教務主任、養護教諭等の職員室職員も家庭訪問し登校を促しました。本校の場合は、登校を促すことで状況が悪くなるような児童がいなかったため、この取り組みで多くの欠席を未然に防ぐことができました。

「○○くんが登校していません。」という教室からの連絡に「家庭訪問へ行ってきます。」と即対応する職員の動きは今年も変わっていません。

また、課題のある児童の保護者との面談も実施しました。その際、一方的に保護者を指導するという立場を避け、今の状況の中で親として学校として子どもにできることを共に見つけていくという対応をとりました。その結果、状況は大きく変わらないものの、保護者の対応に一定の改善が見られました。

親身になっての働きかけのひとつが、卒業式に結実しました。様々な状況から卒業式への出席が危ぶまれていた児童が根気強い働きかけで証書授与に間に合い、式の中で全員に卒業証書を授与することができました。数字的には良い結果の出なかった対策ですが、個々の場面では最大限の努力がされていたと考えています。

今年度の研修予定　（夏季休業中のの計画研修について）

※詳しくは教育センター研修計画をご覧下さい。

紙幅の関係で一部略記してあります。

研修名・時・場所	参加対象	研　修　内　容	講　師　氏　名
教育相談研			
8/19（火）市601		教育相談の在り方	子どもと親のｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ　廣部昌弘先生
		事例研究の進め方と活用方法	不登校問題研修員　小柴孝子先生
8/20（水）市601	希望者	学校で見られる行動障害	君津・中央児相　渡辺　馨先生
		ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｸﾞを活用した教育相談	鷺沼小学校　小宮　健先生
8/26（火）富津市		ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰの理論と実践	君津地方出張所指導主事　朝生光明先生
502･503会議室		ﾋﾟｱｻﾎﾟｰﾄの理論と実践	順天堂大学　助教授　田中純夫先生
人権･道徳教育研			
7/30（水）市201	希望者	授業実践から見える道徳教育の今	周西小学校　教諭　野月裕子先生
図書館担当者研	図書館担当	司書教諭の役割・中央図書館との連携	
7/30（水）中央図	悉皆		
	希望者	科学読み物についての講演	科学読み物研修会委員長　平井崇子先生
養護教諭研			
8/27（水）市601	希望者	児童生徒の心の健康について	国立精神神経センター　渡部京太先生
(小)体育指導者研	学校１名悉皆		
7/25（金）外箕小	希望者	体力向上のための実技研修	君津地方出張所指導主事　小原俊郎先生
コンピュータ研		情報教育充実のための実践	
7/22（火）周西中		ﾜｰﾌﾟﾛ応用研	
7/23（水）君津中	希望者	画像処理「ﾃﾞｰｼﾞｰｺﾗｰｼﾞｭ」	君津市派遣ＳＥ
7/31（木）外箕小		ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ「ｻｲﾊﾞｰﾎﾟｯﾌﾟ」	
8/ 1（金）周南中		「ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞﾋﾞﾙﾀﾞｰ」　等	
特殊教育研	希望者	知的障害･情緒障害に視点をあてて	元特殊教育ｾﾝﾀｰ指導主事　青山春美先生
8/29（金）市601		一人一人を大切にした体験活動	君津養護学校　教諭　渡邊祥子先生
(小)生指担当者研	生指担当者		
7/29（火）市201	悉皆	小学校児童理解における一方策	昭和小学校　校長　浅野孝一先生
小中学校生徒指導研究協議会 長欠対策協議会合同教育講演会 （生徒指導担当－悉皆）		講師　千葉経済大学短期学部　教授　飯田稔先生 演題　「学級経営を基盤とした生徒指導」－信頼される先生・敬遠される先生－ 日時　平成１５年８月２７日（水）午後２時００分受付開始　２時３０分開演 場所　市役所６０１会議室　聴講可－詳しくは通知文書参照	
教育課程研究協議会主催 教育講演会 （各校教諭数の２割程度）		講師　山梨大学教育人間科学部　教授　堀　哲夫先生 演題　「確かな学力の定着をめざして」 日時　平成１５年８月　５日（火）午後１時３０分受付開始　２時００分開演 場所　市役所５階大会議室　（参加申込７月２５日まで）	

新所員紹介

北見　文雄（主査補）

君津市立周南中学校よりまいりました。

元来汗かきの体質で、学校現場ではいつも意味もなく大汗をかいていました。

庁内は涼しいだろうと、それだけ（？）を楽しみにしていたのですが、そんな甘い考えは吹き飛んでしまうほど、毎日悪戦苦闘の冷や汗をかきながら過ごしています。まだまだ十分に仕事の内容について把握できないこともあり、先生方にはご迷惑をおかけすることが多々あろうかと思いますが、精一杯頑張りますのでこれからもよろしくお願いいたします。

新ＡＬＴ紹介

ティナ・マ

ブリティシュ・コロンビア大学で、地理学と小学校教員プログラムを専攻しました。カナダの小学校では、代理教師として教壇に立った経験があります。

両親は中国南部の出身です。

妹が船橋市でＡＬＴをしており、話をする中で、日本に興味を持ちました。日本文化を勉強したり、たくさんの人達に 楽しく英語を教えたりしたいと思っています。

日本の子ども達は、とてもフレンドリーで大好きです。英語・広東語・北京語を話すことができますが、日本語は現在勉強中です。（原文は英語－北見訳）

授業実践シリーズ

私の授業論（小学校　意欲的に取り組む社会科学習）

小糸小学校　　教諭　竹内憲久

1　はじめに

「社会科は大切、でも嫌い」

○一番好きな教科は何ですか？

○大人になってから役に立つと思う教科は？

最初の授業で、よくこの質問をしてみる。

これらの質問の回答を集計してみると、社会科を冒頭に書いたように考えている子が多いようだ。（高学年ほどこの傾向が強い。）

嫌いな理由としては、「覚えることが多くて面倒だ。」「つまらない。」というものが圧倒的である。

子どもたちに考えるおもしろさ、学ぶ楽しさを味わわせ「楽しく意欲的に追求していく社会科」を創造することが私の社会科の授業での課題と考え実践に取り組んでいる。そのいくつかを紹介したい。

2　意欲的に取り組ませるために

○問題意識を高める手だて

感動や疑問・矛盾を感じた時に、「なぜだろう」「調べてみよう」という問題意識が生まれる。

問題意識を強く持たせることは、意欲的な学習を展開する上で最も大切なことと考える。多様な実態がある中で、問題意識を高めるために次のような手だてを取っている。

・共通の認識をつくる

「君津市の工業」の学習で工場の分布を提示する前に「鉄」について調べ、その性質について共通の認識を持たせる。鉄は、「錆びる」という事実を知った子どもたちは鉄の工場は塩の害を受けない内陸部にあるはずだという予想のもとに工場分布図を見ていく。

すると海岸沿いに製鉄工場があるのを見て、「なぜ」という強い問題意識が生まれる。そこから材料や製品の輸出入、水や用地の確保、等について学習が広がっていく。

・体験活動から強い感動を

久留里の雨城楊枝作りを見学した際のこと。職人の小刀さばきは素晴らしく、いとも簡単に黒文字の木がけずられていく。その様子はただ見ているだけでも感動する。しかし、事前に体験しておくと、自分のたどたどしい小刀さばきと比較したり、でこぼこの削り口と比較したりすることで、「さすがプロ」「どれくらい練習したのかな」と、強い感動と具体的な課題が見えてくる。また、職人の作品に対する愛着や生き方に触れることで関心も高まる。

・自分の考えと現実とのずれを追求する

商店の学習のまとめで自分の住んでいる地域に必要な店を考える。これまでの学習から人の動きや、商品の流通も意識しながら様々な店を考える。

しかし、現実にオープンする店は、コンビニエンスストアばかりである。自分たちの考えているような店ができないのはなぜか。自分たちの考えに欠けている視点は何なのか考えさせたり、商店から自分の住む地域の役割について考えさせたりする。

○課題を明確にする手だて

・イラストを描かせて調べる観点を

古代の生活についての学習で、食事の様子の絵を描かせてみる。教科書や資料集で予習して「猟や漁、収集の暮らし」と分かっている子も絵を描くとなると「箸を使っていたか」「どんな食器を使っていたか」「水はどうやって確保したか」細かなところに曖昧な部分があることに改めて気付く。追求する課題がはっきりすると子どもの動きも活発になる。

○必要感を持たせる手だて

・新たな目的を作り調べる必要感を

自分の住んでいる地域調べに意欲的に取り組ませることは、簡単なようでなかなか難しい。そこで他市の友達に紹介するという目的を新たに設定する。分かっていると思っていた自分たちの市の様子も紹介するには、特色等知らないことが多いことに改めて気付く。

3　終わりに

社会科のように素材がある程度限定されてしまう教科は、どうしても課題押しつけ型の学習になりがちである。また、意欲的な活動を通して教科の本質に迫ることも容易ではない。これからも、子どもの思いや、問題解決的な思考の流れに沿った学習過程を追求し、社会科が楽しい、好きだという子を育てていきたい。

1．第３学年社会科学習指導案

2．単元名　店で働く人々の仕事（１３時間扱い）

3．本時の目標　○買う人の願い、店の工夫を確認し、この地区に店を作るなら「どこに」、「何の」店を作ればいいか考える。（１３／１３）

学習内容と主な学習活動	学習活動における具体の評価規準など
1　これまでの学習を振り返り、「買う人の願い」と「お店の人の仕事」を確認する。 「買う人の願い」 よい品を　安全な物を 安く　新鮮な物を 買いすぎないように 「お店の人の仕事」 品物を管理する（古い物を回収） 野菜などを切る（いろいろな大きさ） 品質表示、生産者の表示　など ・みんなの家の人（小糸地区の人）は、このほかにどんな願いを持っているかな？	①これまでの学習内容を振り返る スーパーマーケットで学習が身に付いているか（発言） 買う人の願いに合わせた販売活動の工夫を行っていて、目に見えない部分の仕事もたくさんあることを確認する。 小糸の人々の願い 大きなお店が遠い コンビニは、便利だけど品物が少ない おしゃれなお店がない
2　本時の学習問題を確認する。 小糸地区にお店をつくろう この地区にお店をつくるとしたら 「どこに」 「何　の」　お店をつくるか考える。 ☆私が小糸にお店をつくるなら ①どこに②どんな店を③そのわけは ---------- ---------- ---------- ---------- ----------	②つくりたいお店を考える つくろうとするお店の中に、買う人の願いが反映されているか。 【充分満足できると判断できる状況】 どんなお店が小糸にあると便利か、みんなの願いが反映されるか考えてお店を決めている。商品の流通にも目を向けている。 【努力を要する状況の児童への手だて】 自分の好きな物を自分の家のそばにつくりたいと考える児童には、大人から子どもまで多くの人に来てもらえる店をつくるよう助言する。
3　みんなの考えたお店を発表し合う。	それぞれの発表に、「地域の消費者としてあると便利かどうか考えているか」「買う人の願いが反映されているかどうか」評価していく。（発表、ノート）
4　これから小糸にできる商店を見守っていくことを確認する。 ・どんなお店ができるか楽しみだね。	自分の考えとちがう店ができた場合には、自分にどんな視点が足りなかったか考えてみるよう話す。